

	内容別・課題別の課題分析（知識、技能）	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	- 漢字の長期記憶が苦手な児が多い。 - 知識として言葉を知らない児童が多い。 - 文章を書く際に、主語と述語の意味が通じるようにすることに若干の課題がある。	- 漢字学習では、読み方を定着させるフラッシュカードや、授業冒頭に既習の漢字の書き取りを行い、読字力や書字力を高め、定着させる。また、漢字や熟語に関わるゲーム的な活動を取り入れ、漢字学習への主体的な態度を涵養していく。 - 意味の分からない言葉を挙げ、言葉の意味を調べたり教えたりして児童の知識を増やしていく。オノマトペなどの豊かな表現について触れ、それを使って表現する機会を増やし、言葉を広げていく。 - 文章の書き方を定着させ、短い文で、主語・述語が分かりやすく書くことができるように指導する。	
社会	- 教科書の内容や資料を読み取る力、知識・理解の定着状況に課題がある。 - 社会的な知識を応用してまとめることが難しい。	- 映像資料を活用し、視覚的にも理解を深めていく。 - 教科書や資料集の資料の読み取りを行う活動を多く取り入れていく。資料から分かることを項目ごとに、順序立てて、関連させながら整理してまとめていく。 - 資料から読み取ったものに対して、自分の考えをもたせる活動を取り入れる。また、自分なりの考えを発表し合う機会を設ける。 - 語句や人物の内容を確実におさえ、既習内容をまとめる機会を作り、知識の定着を図る。	
算数	- 分数のかけ算、わり算において、正しく約分することに課題がある児童が一定数いる。 - 割合を求める問題に苦手意識のある児童が多い。	- 途中式を必ず書かせ、約分の見直しを自分でできるように指導する。約分は、「2, 3, 5, 7, 11の倍数」を考えるとよいことを伝え、反復して指導する。授業の冒頭に既習の計算問題を1～2問程度行い、習熟を図る。 - 数直線を用いた指導を充実させることで、量の関係を捉えやすくし、問題場面を正しく理解し、立式できるよう指導する。	
理科	- 実験結果を正しく記録できなかったり、正しく理解したりすることに若干の課題がある。 - 実験は進んで行うことができるが、知識の定着に課題がある。	- 課題に対する自分の考えをもたせ、その考えとその根拠を共有することで、実験観察の意図と方法を理解できるようにする。また、それをもとに見通しをもって実験観察をすることで、結果を正しく理解できるようにする。 - 考察を行う際に、課題に立ち戻り、自分の予想と実験結果を比較しながらまとめさせ、知識の定着を図る。また、単元の終わりでは、学習した内容を整理させる時間を確保する。	
音楽	- 歌唱では、一人一人が思いをもって表現豊かに歌うことや伝えることをすすんで行えるようにしたい。 - 器楽では、パートの役割を意識し、全体で音を聴き合いながら合わせて演奏することが課題である。 - 鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付いたことを言語表現することに個人差がある。	- 一人一人が思いをもって表現に生かすことができるよう言葉がけを工夫したり安心して表現できる環境をつくったりする。 - 互いのパートを聴き合う時間を設けたり、自分のパートと他のパートや伴奏との関わりを理解して演奏したり、録音し客観的に聴くことができるようにしたりする。 - ワークシートや1人1台端末等、各自が感じたことや考えたことを表出しやすい教材を用意する。また、友達の多くの意見を共有することができるよう、板書だけでなく、ペアの意見交流や端末の活用等を工夫する。	
図工	- 表現が深まる前に、作品を完成させてしまう児童がいる。 - 技能面や活動の見通しに課題があり、作りたいイメージに至るまで時間がかかる。	- 児童の作品を授業の始めに提示し、頑張りを認めたり、イメージを共有したりする。周りの意欲を喚起するとともに児童のアイディアを価値付ける。 - 一つ一つ確認して取り組めるよう、時間を区切って課題を与える。また、個別対応で声を掛ける場面を増やしたり、友達との教え合いをすすめたりして、周囲のサポート環境を整える。	
家庭	- 知識が実践につながらない児童が多い。 - 手縫い等の技能習得状況に課題がある。	- 実践と知識が結びつくように授業を計画する。学習したことを家庭生活や学校生活で活用する場面を意図的に作り、知識・技能を身に付けさせる。 1人1台端末などを活用して、縫い方の方法等をわかりやすく工夫する。また、個別に指導するとともに、グループ学習や教え合いを取り入れ、身に付けさせていく。	
体育	全員で協力してゲームを楽しむもうとするが、技能を高めるためのポイントを自ら考える力に課題がある。	- めあてをもって学習に取り組むことができるように計画すると共に、学習カードを活用し、めあてに沿った振り返りを行うようにする。 - 動きのポイントを明確にし、1人1台端末を使いながら、互いに動きの確認ができるようにする。 - ボール運動では、作戦を考えて自分の動きや役割を把握して、実践できるようにする。	